

釧路森林資源活用円卓会議について

1. 開催日時 平成22年11月25日(木) 午前10時～12時
2. 開催場所 釧路工業技術センター 2F会議室
3. 参加人数 委員25名(代理含む)、オブザーバ8名、事務局9名
4. 会議の概要
 - ・ 釧路市は、平成17年の3市町合併により、市全体の面積の約74パーセントを森林が占めることとなった。
 - ・ 釧路市が所有する市有林をはじめとする森林資源の活用を促進し、域内の“結びつき”を強め、地域内循環を進めるなど、資源を持ち、生産から消費に至る環境が整った釧路地域ならではの強みを生かした循環型社会を形成するための取り組みを推進するため、森林関係団体・事業者・研究機関などによる「釧路森林資源活用円卓会議」を設置し、森林資源の有効活用策などを検討(座長：釧路地方林業会の会長、丸善木材の鈴木不二男氏、副座長：釧路工業技術センターの綿貫幸宏センター長)。
 - ・ 全体会議に加え、木材供給側での地域特性に応じた森林施業とコスト削減策などを検討する「川上部会」と地域材利用の拡大策などを検討する「川下部会」を設置(川上部会長：釧路地方林産振興会会長、大澤木材の大澤友厚氏、川下部会長：北海道木質構造開発協議会会長の長谷川渉氏)。
5. 会議での意見
 - ・ 将来の主伐の際に、森林所有者に還元し、再造林してもらう意欲を持っていただくことができるかが課題。
 - ・ 人工林のカラマツを使う技術は今後も向上し、付加価値の高いものを産出する仕組みが出来てくるだろう。安定的に供給するというのが一番の重要課題。
 - ・ 良い物を作ることは比較的出来るが、売る方が大変。地元で見学会などをやるだけでなく、道内、道外にどうやって知らしめていくか検討していくことが必要。
 - ・ カラマツという材料は、工学的にも、意匠的にも多機能な部材。適度な強度もあり、柔らかさもあり、外に使ってもあまり腐れがない、そういった意味では建築材として非常にすぐれた材料。
 - ・ 釧路地域に高い加工の技術があることを発信していくべき。



*会議は、鈴木座長により進行。(写真は、蝦名釧路市長による挨拶)